

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	前立腺癌の骨転移分子メカニズム解明に基づく革新的治療／予防方法の探索
	研究目的	前立腺癌は、進行すると骨への転移が高頻度で起こり、患者さんの治療経過を悪化させるだけではなく、日常生活にも悪い影響をもたらします。前立腺癌の骨への転移に関する研究は多数行われていますが、転移が起こることを予測したり、転移巣への効果的な治療法の開発に繋がるような研究は、残念ながら未だありません。今回の研究では、神奈川県立がんセンターと共同研究するチームが見出した「前立腺癌の骨転移を促進する可能性のあるタンパク質」の発現を、2008年～2018年の間に前立腺針生検を受けた前立腺癌患者さんの病理組織検体で、免疫染色という方法で検討して、本当に骨への転移と関わっているかを検討します。
	研究期間	西暦 2018 年 4 月 27 日 ～ 西暦 2023 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(血清) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	宮城洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科、泌尿器科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	愛媛大学プロテオサイエンスセンター 教授・今井祐記 東京大学医科学研究所抗体ワクチンセンター(兼)滋賀医科大学医学部 臨床腫瘍学 教授・醍醐弥太郎